

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2006～2009

課題番号：18520288

研究課題名（和文）地理情報システムによる世界諸言語の言語類型地理論的研究

研究課題名（英文）Areal-Typological Study of the World's Languages on GIS

研究代表者

山本 秀樹（YAMAMOTO HIDEKI）

弘前大学・人文学部・教授

研究者番号：20200834

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・言語学

キーワード：言語学，言語類型論，言語類型地理論，地理情報システム，世界言語地図

1. 研究計画の概要

世界諸言語の諸特徴の分布状況の分析、および従来の言語類型論や言語系統論を統合する新しい言語類型地理論的研究を可能にする目的のため、デジタル化した世界言語地図（世界言語地図ベクトルデータ）を作製し、GIS（地理情報システム）によって、研究代表者たちが収集してきた膨大な諸言語の諸特徴を組み込み、諸特徴のデータを地図に連動させて表示、検索できるプログラムを開発する。

2. 研究の進捗状況

GISによって汎用可能なデジタル世界言語地図を作製し、研究代表者たちが収集した世界諸言語の様々な言語データを組み込んで言語の諸特徴の分布状況を分析できる環境を整えるための作業を、以下のような手順で進めてきた。

(1)世界言語地図ベクトルデータの作製および加工修正

①Routledge版の『世界言語地図』のページをスキャニングし、イメージデータとして作成した後、それに補正を施し、実座標値を付加した。

②イメージデータから、対象の言語区域を閉図形化されたポリゴンとして図形化（ベクトル化）した世界言語地図ベクトルデータを作成した。

③世界言語地図ベクトルデータに対して、『世界言語地図』の第1版と第2版との間で表現や仕様が変更になった部分、および地域

の区分けが変更になった部分に対して、必要な加工修正を行った。

④地区、地域、大陸、国別の世界言語地図ベクトルデータに対して、言語属性情報に含まれる言語番号を基準に、言語属性情報を付加加工した。

(2)これまでに作製した世界言語地図ベクトルデータに我々の言語特徴データを関連づけるためには、世界言語地図ベクトルデータ上の言語と我々がこれまで収集してきた種々の言語データ中の言語とを関連づけることが不可欠である。そこで、本研究が基にしたRoutledgeの言語地図で使用されている言語名と我々のデータにおける言語名との照合を行った。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

（理由）

『世界言語地図』第2版の刊行が大幅に遅れたことにより、18年度の補助事業完了を19年9月末に延長して経費の繰越を行った。しかしながら、研究代表者たちのデータを地図上に関連づけるための言語名照合および世界言語地図ベクトルデータの加工修正が20年度までにほぼ完成したことから、その後はおおむね順調に研究が進展していると言える。

4. 今後の研究の推進方策

今後は、照合させた言語名に基づいて、これまで作製、加工修正してきた世界言語地図ベ

クトルデータに、研究代表者たちが収集してきた膨大な諸言語の様々な特徴を組み込み、世界諸言語の様々な特徴のデータを地図に連動させて表示、検索するためのプログラムを開発していく。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 5件)

- ① 吳靱、山本秀樹、乾秀行、杉井学、松野浩嗣、「語順地図作成に必要なデータ及び語順地図に現れる語順分布」、『一般言語学論叢』、10号、31-47頁、2007年、査読有
- ② 吳靱、乾秀行、杉井学、松野浩嗣、「言語研究のための GIS データの生成について — Ethnologue GIS データを言語特徴の地図化に用いる一手法—」、『人文科学とコンピュータシンポジウム論文集』、253-258頁、2007年、査読有
- ③ 山本秀樹、「GISと言語類型論 — 世界言語地図に基づく言語研究」、『一般言語学論叢』、9号、31-39頁、2006年、査読有
- ④ 山本秀樹、「書評・紹介：Martin Haspelmath, Matthew S. Dryer, David Gil and Bernard Comrie (eds.), The World Atlas of Language Structures.」、『言語研究』、130号、131-138頁、2006年、査読有
- ⑤ 乾秀行、「GISを使ったクシ・オモ系言語研究」、『一般言語学論叢』、9号、47-58頁、2006年、査読有

[学会発表] (計 2件)

- ① 山本秀樹、「言語地図を用いた類型論的研究について」、『東ユーラシア言語地理学に関する研究会』於青山学院大学、2007年12月23日
- ② 吳靱、乾秀行、杉井学、松野浩嗣、「言語研究のための GIS データの生成について — Ethnologue GIS データを言語特徴の地図化に用いる一手法—」、『人文科学とコンピュータシンポジウム』、於京都大学、2007年12月14日